



昭和56年10月10日創刊
令和6年1月1日発行
二松學舎松苓会
神奈川県支部
振替 00280-3-2646
支部長 平野 光治
題字 下河部元支部長書
印刷 (株)アドタック

令和6年度 神奈川県支部 第45回定期総会報告

支部長 平野 光治

令和6年8月10日(土) 14時20分より、かながわ県民センターにて、第45回二松學舎松苓会神奈川県支部定期総会が開催されました。

支部長挨拶後、来賓の本部副会長 星野優子様、東京支部長 矢澤喜成様、よりご挨拶をいただきました。

伊藤文雄様の司会により議長、書記を選出して議事に入りました。

議案の「令和5年度事業報告」「令和5年度決算」「令和6年度事業計画案」「令和6年度予算案」は全て承認されました。

第6号議案の「諸事業の見直しと検討」その他「ご参加の皆様より」では、支部の現状を踏まえ、活性化に向けての今後の具体的取り組みについて多くのご意見をいただきました。ありがとうございました。感謝しつつ、支部長としては申し訳ない思いでいっぱい



かながわ県民センターにて

となりました。

議事終了後、「私の俳句の技法」との演題で地区長の福島猛様にご講演いただきました。

「俳句も和歌」と和歌の発展したものとの考えのもとで、三首の短歌を例として解釈とそこに込められた意味や心を読み解いていただきました。そのうえで「俳句を作るとき的心得」「投稿のルール」との項目にて、俳句の基本と作成上の注意事項、俳

句の技法、奥深さについてお話しいただきました。「正岡子規」の「俳句大要」「第四、俳句と四季」にてのまとめと共に興味深く拝聴し、俳句への理解を深めた講演となりました。二年連続のご講演に心より感謝申し上げます。

出席者名

■来賓

本部副会長 星野優子様(42)
東京支部長 矢澤喜成様(50)
■神奈川県支部会員

網野将美(64)・伊藤文雄(45)
小林孝彰(38)・
佐藤 馨(政修5)
原田佐知子・平野光治(40)
廣田克己(38)・福島 猛(44)

令和6年

文学歴史探訪について

副支部長 小林 孝彰

令和元年の横浜地区での開催以来コロナ禍により中断していた文学歴史探訪が令和6年10月



JR大磯駅前にて

12日(土)大磯地区で開催されました。

13時JR大磯駅に集合、本部大山由美子副会長、東京支部矢澤喜成支部長も参加され計9名が集合、今回は大磯ガイド協会のガイドさんの案内によりスタートしました。

大磯は明治20年(1887年)に鉄道が開通し軍医松本順によって海水浴場が開かれ政財界や華族文士など様々な人々が集う別荘地として発展し歴代総理大臣8名の別荘もあった場所です。駅から線路沿いに歩くこと約5分、最初の訪問場所は「旧島崎藤村邸」です。

詩人、小説家。明治期は新体詩詩人として『若菜集』『落梅集』等刊行。晩年の約2年間を過ごした邸宅は3間の平屋建て外壁には杉の皮が使われています。

割竹垣に囲まれた庭には季節の花が咲き乱れ藤村はこの家を余にふさわしき閑居なりと、そして「静の草屋」と呼んでいたそうです。昭和18年(1943年)8月「東方の門」執筆中に頭痛に襲われ倒れかけるも、しばらくすると気分も良くなり庭に眼をやり涼風の過ぎるのを感じ「涼しい風だね」とつぶやき、そのまま昏睡状態となり意識が戻ることなく亡くなりました。

次に歩くこと約5分、京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場の一つである「鴨立庵」は現在まで300年以上続く場所で、ここには「湘南」発祥の地を示す史跡もあります。(心なき身にもあわれは知られけり鴨立沢の秋の夕暮れ)平安末期の歌人・西行法師がこのあたりの海岸を吟遊し詠んだ歌といわれた歌です。江戸時代初期1664年小田原在の崇雪という人物が西行のこの歌にちなみ、この場所に鴨立沢の標石を建て草庵を結んだのが始まりでその後、紀行家と知られ俳諧師でもある大淀三千風が庵主1世として入庵以来、現在23世へと続く俳諧道場です。

次の「旧吉田茂邸」にはバスで移動しました。2009年(平成21年)不審火により母屋が焼失その後2016年(平成28年)に再建され公開されています。政界引退後に富士山が見えるこ



鳴立庵にて

の場所で晩年を過ごしました。神田駿河台に生まれ外務大臣、内閣総理大臣を歴任し優れた感覚と強いリーダーシップで戦後日本の礎を築き「和製チャーチル」とも称されました。養母は漢学者佐藤一斎の孫であり、吉田は自身の人格形成に漢学が大きな影響を与えたと昭和39年第5代の二松學舎舎長就任の際に説明しています。

予定の訪問地を終え16時過ぎまだ陽射し強く残る中、駅に戻り解散となりその後有志による懇親会が藤沢で開かれました。天気恵まれ暑いほどの中、今回は大磯地区一部分の散策でしたが明治の文化人たちのゆかりの地は再度訪れたい魅力ある場所でもありました。参加の皆様と共に有意義な時を過ごす事が出来ました。

令和5年度 決算

令和5年7月1日～令和6年6月30日 単位：円

収入金額	支出金額	差引残高
1,314,682 円	207,329 円	1,107,353 円

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
繰 越 金	1,079,949	1,079,949	0	現金 ¥131,115 振替 ¥948,834
会 費	120,000	40,000	△80,000	¥10,000×2名、¥6,000×2名、¥2,000×4名
助 成 金	150,000	146,733	△3,267	本部より助成費(支部運営¥141,404)
祝 い 金		30,000	30,000	支部総会開催祝い金(本部・東京支部・千葉支部より)
懇親会費・雑収入		18,000	18,000	懇親会費4,000円×会員4名、本部・平野会長よりご芳志2,000円
計	1,349,949	1,314,682	△35,267	

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
会 議 費	100,000	8,518	△91,482	役員会等の諸費用及び会場施設使用料
交 通 費	50,000	19,160	△30,840	役員会、小役員会等の交通費
印 刷 費	70,000	66,330	△3,670	支部報印刷代
通 信 費	100,000	45,723	△54,277	郵便料金、レターパック、切手葉書
慶 弔 費	30,000	0	△30,000	
支部交流費	50,000	20,000	△30,000	支部総会開催祝い金(東京支部・千葉支部)
支部助成費	100,000	29,700	△70,300	懇親会費用
事 務 費	30,000	7,002	△22,998	プリンターインク代
雑 費	10,000	10,896	896	振込手数料(ゆうちょ銀行・横浜銀行)・支部助成費過払い分返金
予 備 費	809,949			
計	1,349,949	207,329	△1,142,620	

令和6年度 予算

令和6年7月1日～令和7年6月30日 単位：円

[収入の部]

科 目	予 算	摘 要
繰 越 金	1,107,353	現金 ¥200,242 振替 ¥907,111
会 費	100,000	¥2,000×50口
助 成 金	150,000	本部よりの助成費(総会開催、支部報印刷、支部運営費等に運用)
祝 い 金		お祝金他(本部、東京支部、千葉支部他)
懇親会費・雑収入		総会懇親会費、賀詞交歓会費等
計	1,357,353	

[支出の部]

科 目	予 算	摘 要
会 議 費	100,000	総会、賀詞交歓会、役員会等の諸費用及び会場施設使用料他
交 通 費	50,000	役員会、支部交流、小役員会等の交通費
印 刷 費	80,000	支部報印刷代
通 信 費	120,000	郵便料金、ゆうパック、宅急便、切手葉書等
慶 弔 費	30,000	会員の慶弔
支部交流費	50,000	他支部総会時の祝い金(東京支部、千葉支部、教員の会他)
支部助成費	100,000	総会、賀詞交歓会、文学歴史探訪等への助成
事 務 費	30,000	支部封筒印刷代、事務用消耗品等の購入
雑 費	10,000	振込手数料他
予 備 費	787,353	
計	1,357,353	

令和5年度 事業報告

(令和5年7月1日～令和6年6月30日)

1. 5年 7月8日(土) 役員会
(令和5年度の事業について、総会実施についてなど)
2. 〃 7月8日(土) 「令和4年度会計監査」(かながわ県民センター)
3. 〃 7月29日(土) 「第44回 定期総会」(かながわ県民センター)
4. 6年 4月上旬 「神奈川県支部報 第43号」発送(300部印刷)
5. 〃 4月24日(水) 本部へ「助成費」申請
6. 〃 6月14日(金) 小役員会
(令和6年度事業日程について、事業見直しについて)

※「文学歴史探訪」「賀詞交歓会」は新型コロナウイルスの影響により中止

令和6年度 事業計画

(令和6年7月1日～令和7年6月30日)

1. 6年 7月6日(土) 役員会(かながわ県民センター)
2. 〃 7月6日(土) 「令和5年度会計監査」(かながわ県民センター)
3. 〃 8月10日(土) 「第45回 定期総会」(かながわ県民センター)
4. 〃 10～11月 「神奈川県支部報 第44号」発送予定(300部印刷)
- 〃 10月12日(土) 「文学歴史探訪」開催予定
6. 7年 1月18日(土) 「令和6年度 賀詞交歓会」開催予定
7. 〃 2月初旬 本部へ「支部助成費」申請予定
8. 〃 6月下旬 「令和6年度 会計監査」予定

※新型コロナウイルスの影響による変更・中止の可能性あり

※小役員会は、必要の都度開催

監査報告書

監査報告書

松苓会神奈川県支部 規約 第14条に基づき

「令和5年度会計の執行状況」について監査した結果

適正であることを認めます。

令和6年 7月 6日

監 査

伊藤 文雄

小林 孝彰

松苓会神奈川県支部役員

(令和4年7月1日～令和7年6月30日)

県西	県西	県央	三浦	横浜	横浜	県央	川崎	県央	県西	県央	横浜	川崎	地区
地区委員	地区長	地区長	地区長	地区長	監査・支部報	事務局長	副支部長・監査	支部長・支部報	〃	〃	〃	顧問	役職
53	53	53	48 修15	44	45	64	38	40	38	38 修5	31	27	卒回
大島	岩本	山口	前田	福島	伊藤	網野	小林	平野	田中	廣田	松丸	井上	氏
雅文	明子	正樹	明	猛	文雄	将美	孝彰	光治	憲明	克己	由文	興正	名

会費納入者 名簿 (年二千円)

令和3年7月から

区市町村・回氏名

年度

修15 48	三浦地区	63	62	62	53	50	49	46	45	45	44	修11 44	42	41	31	26	25	17	横浜地区	79	47	博10	38	27	川崎地区
		吹原	岩谷	横打	栗原	南	田所	中安	入澤久美子	伊藤	小野	福島	重田	青野	松丸	河本	広田美奈子	須藤		中本	小林	山崎	小林	井上	
前田		礼憲	恵美	理奈	明美	美賀子	哲夫	文恵	文雄	道子	猛	裕司	有美	由文	岡文		侑二		雄希	英子	正伸	孝彰	興正		
3 4		3 5	3 7	3 12	3 5	3	4 5	3 5	3 5	3 8	3 5	3 7	3 5	3 9	3 5	3 6	3	3 6	3 4	3 5	3 6	3 10	3 7		

48	47	40	39	39	湘南地区	80	73	博37	64	51	修10 43	39	41	40	39	38	38	38	修5 38	政修5	県央地区	政15	修38 71	53	53	41	40	県西地区	77	修32 65	61	52	52
平澤	松永	宮澤		小川		竹田	保田	小磯	網野	齋藤	城所		保田	平野	三嶽	吉岡		菊池	廣田	佐藤		星野	石塚	岩本	大島	菊地	鈴木		小田	土屋	高梨		小佐
孝	恵子	峰代	美登里	一雄		津一孝	悠	純子	将美	正	庸子	陽子	完次	光治	道子	富子	純子	正紀	克己	馨		正貴	知恵子	明子	雅文	晃三	まがね	切麻以	隆史	徹雄	玲子	野和正	
3 8	3 9	3 6	〃	3 7		3 7	3 10	3 7	3 7	4 8	4 5	〃	3 7	3 10	3 6	3 5	〃		3 8	3 8		3 6	3 5	3 5	3 5		3 7	6	3 7	3 9	〃	3 5	



事務局では間違いのないよう確認しておりますが、記載に間違いがあれば大変申し訳ございませんが、ご一報をお願いいたします。
(事務局長 網野 将美)

賛助会員
横浜 鈴木 久子
吉田 和恵
3
7

準会員
横浜 原田佐知子
3
7

80
修36
69
永井俊太郎
3
5

45
38
38
渡邊 幸江
3
5

他都道府県
田中 憲明
3
5

57
52
52
大屋 信子
3
4

51
修16
49
山根 雅彦
3
5

49
箕浦さおり
3
6



・玉宝寺 (五百羅漢)
伊豆箱根鉄道五百羅漢駅から
徒歩3分

・小田原文学館 (旧田中光顕邸)
箱根登山鉄道箱根板橋駅から
徒歩10分

・清閑亭 (旧黒田長政別邸)
小田原文学館近く

文学歴史探訪 (令和7年)
予定地



■講師
二松学舎大学
教授 原 由来恵 様

■内容
紫式部と清少納言

総会 (令和7年度)
講演予定

支部報への投稿のお願い

支部報発行に向けて会員の皆様の執筆、投稿 (趣味に関することや随想等記事内容は自由で800字程度) をお願いいたします。執筆いただける場合は支部長の平野光治までご連絡ください。

資料提供への協力依頼

神奈川県支部にかかわる「資料」を探しています。創立当初の状況や歴代会長、役員名等の資料、各種会議資料、過去の支部報 (12号、平成4年発行が不明) 等、二松学舎松苓会神奈川県支部にかかわる全ての資料が対象となります。お持ちでしたら支部長の平野光治までご連絡ください。なお、提供いただいた資料は活用後返却いたします。

連絡先 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 1031-15 電話 090-4207-3699
メールアドレス (PC) shourei.kanagawa.hirano@gmail.com